



みんな知っちゃう！？ 新・火の山公園



市立大学

学生広報スタッフ

「火の山の再編整備」の進み具合を確認するため、最近完成した「アスレチックエリア」を視察しました。

整備計画の資料と現地を見比べる中で、特に印象に残ったのは公園の「ブランディング」です。自然や歴史…火の山の特徴を生かしつつ、建築物や案内板、ロゴマーク・カラーなどが適材適所に配置されていて、一貫したメッセージが伝わってきました。

待望のアスレチックは、子どもたちが無我夢中で遊べる周遊型の遊具が設置されており、元気に走り回る姿が目に見えます。また、開放的な展望スポットもあり、詩を書きたくなるようなゆったりとした時間を過ごせます。展望台やゴンドラなどは現在整備中ですが、計画に沿って工事は着実に進んでいました。

今回、**関門海峡を望む下関市の象徴をより感じることができました。**案内して下さった公園緑地課の千手大輔さんは「観光客の方々には、市内の観光地と併せて火の山にも来ていただきたい。下関市民にとっては、憩いや活動の場でもあつ

てほしいです」と思いを語ってくださいました。**生まれ変わりつつある新・火の山公園、この大きな動きに期待せずにはいられません！**



MUGURUMA KOJI

六車 浩二 隊員(むぐるま こうじ)

令和5年10月に地域おこし協力隊に着任。豊田農業公園みのりの丘の農園付きロッジを拠点に、農業経験のない方や高齢者でも取り組める「スマート農業」の実証実験をしています。

ロボットが変える
農業の未来

今年は、無農薬米栽培での除草作業を効率化するため水田除草ロボットを導入しました。試行を重ねながら、稲にダメージを与えないように条間を走行できるロボットを開発中です。この機能を拡張して種を直接田んぼにまき、育苗や移植作業を省略する栽培方法にも挑戦したいと考えています。

また、市販の草刈り機にリモコンによる遠隔操作機能やGPS測位による自律走行機能を追加するという社会実装を計画しています。

これからのスマート農業を支える人材育成も大切です。未来を担う子どもたちにロボットプログラミング教室を開催し、ロボット技術などを活用したスマート農業がもたらす効果を伝えながら、新たな技術・手法の普及にも取り組んでいます。今後の成果にぜひご期待ください。



下関市地域おこし協力隊員は
11人です(11月14日現在)